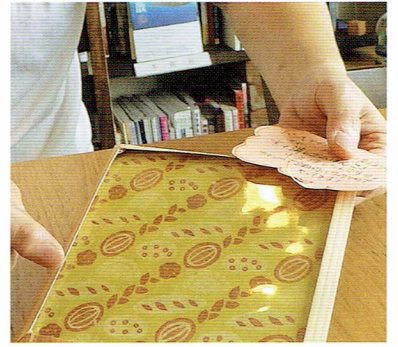




シニアライフアドバイザー  
松本すみこ

（有）アリア代表、NPO法人シニアワークスRyoma 21理事長。シニアライフアドバイザー、キャリアコンサルタント。早稲田大学第一文学部卒業。団塊・シニア世代の動向研究とライフスタイル提案、市場分析などを行い、講演・執筆など多数。大人のためのインターネットラジオ「あすも」のMC。著書に「地域デビュー指南術～再び輝く団塊シニア」（東京法令出版）など。

キスタイルデザイナーの会員が、消しゴムハンコの講座を渋谷で開くという話をしていた。だったら、その前に、ほかの会員にモニターになってもらって、ここでお試し講座をやってみたらどうかということになった。開催してみたら大好評。これがきっかけで、ワークショップを開催する人が増えた。ここなら、初めてでも仲間が参加してくれるので、できそうだと思うらしい。「もっと広いところを借りて、きれいにすれば会員が増えて、利



ワークショップのさががけとなった「消しゴムハンコ」作品。「つなげると無限に大きくなるですよ」と鈴木さん

益があがりますよと言われます。でも、会員さんがやめてつて。この狭さがいいんですって」（笑）。

「ここはもはや蔵書室ではありません。僕は物語が生まれる場所だと思っているんです」との言葉は、

今後の決意表明のように思えた。  
■ かまくら駅前蔵書室  
<https://www.kamakurakeimine.com/>

## ひと味違う投資「クラウドファンディング」

昔は起業するというのは、今よりもっと大変なことだった。実は、筆者もささやかな起業組だが、会社設立には最低300万円（有会社）から1千万円（株式会社）が必要だった。今は、資本金が1円あれば会社はできる。まさか1円で起業する人はあまりいないだろうが、資本金調達に悩んだ身としては、本当に羨ましい。

最近はずっと簡単に、普通の人が志や情熱を実現できる方法が生まれてきた。クラウドファンディングである。事業だけでなく、社会的な市民活動や趣味的なものも含めて、活動の目的や実行計画を、意欲と熱意でもって表現することで、その夢に賛同する人たちが投資をするという仕組みだ。

クラウドファンディングには投資型、購入型、融資型、寄付型の4つがあると言われている。「かまくら駅前蔵書室」の鈴木さんが利用したのは寄付型とっていいだろう。

他の3つは投資した以上は金品



鎌倉の出版社が出した本もある

の見返りを期待するが、寄付型での見返りは、何かの商品を開発したら、寄付金額に応じて安く買えたり、無料になったり、ちょっとしたサービスがあったりするだけ。寄付金額を超えることはないし、寄付する側もそんなことはあまり考えていない。それよりも、実行者と一緒になって夢や志を実現させていく過程を共有し、自分も参加しているという感覚を持つことに喜びを感じる。寄付する側も同じ夢を見ているのだ。

さまざまなファンドのなかで、鈴木さんが利用したのは「Ready for (レディーフォー)」。このサイトを見れば、実に多彩な夢と活動を見ることができ、市民活動のダイナミックささえ感じる。さらに驚くのは、数百万円の寄付を集めるプロジェクトがたくさんあることだ。基本は1口数千円の寄付だから、いかに多くの人が注目しているかがわかる。

鈴木さんはクラウドファンディングに二つのメリットを見出した。一つ目はもちろん資金集め。もうひとつは、ファンドの募集サイトに掲載されることで、広報活動になるということ。寄付だけでなく、会員になってくれる人にもアプローチできる。

鈴木さんは8月に2週間ほど入院した。ワークショップが連日入っていたが、会員が代わって運営してくれたという。その結果、連日、ワークショップを開催することができた。

こうしたつながりも、クラウドファンディングで生まれた仲間意識のなせる技なのだ。